

# 平成23年度日本体操学会公募研究プロジェクト報告書

## 研究題目 小・中学校における体つくり運動の教材開発と動画配信

### 研究者氏名（所属）

- 長谷川 聖修（筑波大学）大島林子（名古屋芸術大学）大塚隆（東海大学）  
小出高義（北海道教育大学）関野智史（筑波大学附属中学校）  
住本純（東大阪市立玉串小学校）

### 報告

#### 1. 目的

平成10年に改訂された学習指導要領より、体操の領域が「体つくり運動」と名付けられ、体ほぐしの運動が新たに加えられた。さらに、平成20年には、小学校低・中学年から体つくり運動が位置づけられ、多様な動きをつくる運動（遊び）が課題として明記されるようになった。

この背景には、学校体育全般で子どもたちの体力や運動能力の低下が社会的な問題となっていることが挙げられ、これまで以上に体操領域に関わる研究者や教員に求められる役割は大きいものと考える。

しかしながら、これまで体操領域で積み上げられてきた教材が小中の教育現場で活用されてきたとは言い難い。また、小学1年生から始まる体つくり運動の教材についても新たな取り組みは始まったばかりである。

そこで、本プロジェクトでは、次の二つの目的を持って活動する。

1. 小学校低中学年、高学年・中学校の児童生徒を対象として、「体つくり運動」の典型教材を開発する。
2. これらの動画をWEB上で公開し、教材内容についての評価を閲覧者がweb上で容易にできるようにして、教材改善のためのPDCAサイクルを確立する。

#### 2. 概要

現場への普及を考えると、新しいプログラムを提供するには課題が多いと考えた。そこで、まずは、ラジオ体操の動きをベースに発展させ、教師側からすると教えやすいと言う観点を出发点とした。そして、人の観点（ペアやグループでの運動）、用具の観点（ボールやJPクッションを用いた運動）、音楽の観点（AKB48やKARAなど思わず動き出してしまうリズム運動）から児童・生徒が主体的に取り組めるプログラムを考案した。

#### 3. 成果

考案したプログラムを以下のサイトに動画として掲載した

<http://gym.tsukubauniv.jp/archives/category/movie>

なお、掲載したサイトはブログタイプの形式で、動画を閲覧後に、誰もが内容について書き込みができるようにして、関係者から意見を収集するシステムを構築した。

今後はこれをベースに、実践現場での普及を目指す予定である。

